

推薦します

## 富豪・企業家の史的研究に不可欠な重要資料

国土館大学政経学部教授 阿部武司

貸出先の信用調査は銀行をはじめとする金融機関にとって最も重要な業務であるが、個々の銀行が独自にそれを実施する際のコストを社会的に節約するために興信所が設けられた。まず 1892 年に大阪で外山脩造の主導によって商業興信所が、次いで 1896 年に東京で渋沢栄一を会長として東京興信所が設立された。クロスカルチャー出版が、明治大正期、さらに昭和戦前期と、刊行時期を追って復刻してきた『商工信用録』（東京興信所刊行。主に東日本を対象）および『商工資産信用録』（商業興信所刊行。主に西日本を対象）は、個別の企業家に関する信頼に堪える「正味身代」（資産総額）や信用の程度を詳細に示した文献であり、今日の研究者にとっては、刊行時における企業家たちの信用力を知ることができる貴重な資料である。近年、全国各地で展開してきた富豪の企業者活動に関する歴史的研究が精力的に推進されているが、各富豪が全国的に見てどの程度の地位にあったのか、あるいは、どの程度しっかりとした存続の基盤を持っていたのか、という基本的事実への論及は意外に少ない。また、ある企業家が好況期にどの程度まで成長したのか、同じ人物が長期不況期にはどこまで持ちこたえられたのかも客観的に知りたいところである。さらに、多数の企業家を対象にして、それぞれの人物に関する資産額の推移を追うことによって、経済的格差が拡大していったのか否かといった問題も興味深い。『商工信用録』と『商工資産信用録』は以上のような論点を考察する上で、まことに有益と思われる。山崎広明氏のようにこれらの資料を駆使した研究者がいない訳ではないが、興信所が会員に限って配布していたという事情によって閲覧が必ずしも容易でなかったために、使用されることが多くなかった。しかしながら、復刻されたそれらが主要な公共図書館や大学の図書館・研究室などに備えられることによって、その活用の条件が今や整いつつある。



Crossculture  
Publishing  
Company Ltd.